

新型コロナウイルスの発生から満5年 次のパンデミックに備えよ！

1月16日パナソニックが次亜塩素酸水の実空間における空間除菌実験結果を発表した。

今までの試験管やシャーレでのエビデンスではなく、医療系大学で実際に使っている教室等での比較実験を行い、次亜塩素酸水が空間噴霧された空間では各種の浮遊菌が85%除菌されたという実験結果が発表された。

付着菌についてはなんと99・9%の除菌ができたという。

次亜塩素酸水については、コロナ禍において新型コロナウイルスを不活化することが政府の実験でも確認されたにもかかわらず、一部アルコール業界、薬品業界による悪質な風評工作により「空間噴霧は危険であり、ヒタヒタにしないと効果がな

技術・研究開発 / プレスリリース

2025年1月16日

群馬バス大学との共同研究を実施

業界初^{※1}、実使用空間において次亜塩素酸を用いた浮遊菌・付着菌の除菌効果を検証

「感染制御空間」創出を目指し産学連携を推進

パナソニック株式会社 空間空調社は、この度、群馬バス大学と共同で、業界初^{※1}、実使用空間で次亜塩素酸を用いた浮遊菌・付着菌の除菌効果を検証しました^{※2}。今後も産学連携を進め、次亜塩素酸技術のさらなる進化、また菌・ウイルスによる感染リスクを低減する空間づくりを目指して研究を行っています。

昨今、インフルエンザ、新型コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎など様々な感染症の流行が確認されている中、当社が30年以上にわたる研究^{※3}、除菌・脱臭で高い効果が認められている次亜塩素酸において、インフルエンザウイルス、新型コロナウイルスなど多くの菌・ウイルスへの除菌効果を検証してきました。また、2022年4月には、次亜塩素酸に関するより高度な検証を行うための施設として、愛知県春日井市に「IAQ検証センター」を設立し、さらなる研究体制の強化に努めています。

これまで蓄積してきた次亜塩素酸による菌・ウイルスを抑制するエビデンスに加えて、実際にヒトの感染リスク抑制に向けた効果検証を進めていくため、今回、医療系大学である群馬バス大学との産学連携を開始しました。群馬バス大学の先端医療科学研究センターは、先駆的な医療科学研究を推進しており、ウイルス感染症の新規検査診断法の開発など、ウイルス感染症の診断治療に不可欠な重要な研究や院内・施設内感染制御ならびに原因究明に関する研究を一貫して行っています。

この度の検証では、業界で初めて^{※1}、群馬バス大学の教室や実習室（実使用空間）を使い、次亜塩素酸による室内の浮遊菌および付着菌の除菌効果を検証しました。浮遊菌では、生徒が実際に授業を受け、換気・空調を運転している約70畳の広さがある教室を2つ用意し、一方に次亜塩素酸水溶液を装置内部で生成する機能と集じんフィルタを搭載した検証装置を設置。実際に大学が稼働している月曜から金曜日の5日間24時間換気を運転させ、火曜日の昼食時、午後の講義後に浮遊菌を採取しました。その結果、検証装置が設置されている教室では約85%の菌の減少が確認できました。さらに、教室内の浮遊する菌を測定し、カビやバチルス属菌、黄色ブドウ球菌等の様々な菌や真菌が検出されました。これらにより、次亜塩素酸生成と集じんフィルタを搭載した装置が幅広い浮遊菌に対して効果があることが示唆されます。

付着菌では、換気・空調を運転している約56畳の広さの無人の実習室に、上記と同様の検証装置から8m離れたところに大鏡面、緑鏡面、黄色ブドウ球菌を付着させたシャーレを配置し、検証装置内で生成した次亜塩素酸水溶液を揮発させた気体状次亜塩素酸によって、検証装置無し（自然減衰）に対して24時間後の比較では、黄色ブドウ球菌で99.9%の減少を確認しました。

本研究結果に対して、群馬バス大学のインフェクションコントロールドクターである水村博一教授は、「引き続き実使用空間の除菌試験と罹患率評価に取り組み、将来的には、次亜塩素酸技術の活用が、感染リスクの低減に効果的であると確認されることに期待したい」と述べています。当社は今後も、人々が安心、安全に暮らすことができる「感染制御空間」の創出を目指し、次亜塩素酸技術の研究に取り組んでいます。

▲パナソニックのプレスリリース

危機管理コンサルタント 越智文雄の 時論・持論・自論

〈第34回〉パナソニックが実空間実験結果を発表



い」など間違った情報がメディアにも流れた。その後、「感染対策を資材と技術から考える超党派議員連盟（会長・片山さつき参議）」の活動により国会の場で厚生労働大臣が風評を否定し、厚労省からも「メーカーの注意書きに沿って使用する分には問題はない」との通達が出されている。

空気感染を否定した 背景に業界利権

この馬鹿げた、アルコール業界と製薬業界による厚労省官僚を巻き込んだ利権工作のために、どれだけの人が新型コロナウイルスに感染し、苦しみ、亡くなったか。親の死に目にも会えず、葬式も出せなかった馬鹿げた時代を誰が作ったか。多くの会社家が倒産し、失業し、文化と社会が崩壊したコロナ禍を防ぐ有効な方法が実はあったのである。「ありとあらゆる対策を取る」と宣言した政府が、科学的に間違いなくウイルスを不活化する

ことを2020年6月に政府の実験で証明していながら、厚労省とアルコール業界が嘘の通達とチラシを作って空気感染防止策を迫害し続けたのである。

世界中が空気感染であること
を認めているにもかかわらず、
日本だけがいつまでも飛沫感染、
接触感染を原因として、アクリ
ル板とマスクとワクチン接種し
か行わなかった政府の基本方針
は誰が工作した結果なのか。

アルコールでは空間消毒はできない。人のいる空間でも浮遊する菌を85%減らせるといふ次亜塩素酸水は米・露・中・英・仏・独他、世界中でコロナを終息させるのに大きく役立った。日本だけが空気感染自体を否定して、空間消毒の概念を圧殺していたのである。これを犯罪と言わずなんというのだろうか。

ここに空気感染を認めたくない業界利権があった。いくら手

事務連絡
令和4年10月24日

都道府県
各保健所設置市
特別区

衛生主管（部）局 御中

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部

次亜塩素酸水の空間噴霧について

次亜塩素酸水の空間噴霧について、令和3年10月21日発事務連絡¹にある「推奨されていません」との記載について、全面的に禁止されているものであるとの誤解があるようですが、同事務連絡において既に示しているとおり、個々の製品の使用に当たり、その安全性情報や使用上の注意事項等を守って適正に使用することを妨げるものではなく、製造販売業者等により提供された正しい情報をもとに、消費者にご判断いただくべきものであるとの、貴管内の関係機関に対して改めて周知くださるようお願いいたします。

なお、「次亜塩素酸ナトリウム（NaClO）」の空間噴霧については厚生労働省として「職場のあんぜんサイト」²でも注意喚起をしているところでございますので、いま一度周知徹底をお願いいたします。

▲厚生労働省のデマを否定する通達文

すりどアノブをアルコールで拭いたところで、空気中のウイルスをマスクでは防げなかった事は今なら誰でも理解する。根本的な空気感染対策があるにもかかわらず、次亜塩素酸水業界が何度もアピールを発表し、国会の場で良識ある

保健所はしっかり 勉強し直すべき

また、医学薬学の現場で常識である次亜塩素酸水の活用について、それを知っている医者も学者も口を閉じ続けた。プリンセスダイヤモンド号の消毒に初

めから次亜塩素酸水を空間噴霧していれば、そもその感染拡大は起こらなかったかもしれない。この時、横浜で次亜塩素酸水メーカーから寄贈を申し出ていたにも関わらず、Dマットは「厚労省が認めていないものは使えない」と拒否した。港で支援に入った自衛隊は使っていたにも関わらずである。

札幌市も、北海道庁も、多くの自治体も「厚労省が認めるまでは使わない」との見解で、コロナの空気感染拡大を放置することになった。感染対策セクションも危機管理部局も市民の生命が関わる事態にも関わらず風評に惑わされ、真実を調べようともしなかった。厚労省がすでに通達を変更し、デマを否定しているのに、今、本日現在でも感染防止対策として認めずに感染対策の備品にすらしていないのはなぜだろうか？

北海道は早くから酪農や畜産、軽種馬、食品加工で次亜塩素酸水を使ってきた。もやしやカッ

ト野菜も弁当素材も次亜塩素酸水で洗浄しているからノロ中毒にならないのである。コロナ禍で町民に次亜塩素酸水を配布していた自治体も多くある。

悪質なネガティブキャンペーンによっていまだに誤った認識が払拭されていないため、自治体の災害備蓄品リストに入っていないかったり、いまでも保健所が空間噴霧は認めないという誤った指導を行っているところもある。

ある保健所職員が、長年次亜塩素酸水を加湿器噴霧して園児の健康を守っていた保育園に対して、それをやめるように指導した結果、クラスターが起きて保育園は閉鎖し、自宅待機の園児から父親が感染し死亡したという深刻な事実もある。

感染対策、防災危機管理セクション、保健所は猛省してしっかりと勉強し直していただきたい。市民の健康と命を守るあなた方が風評に騙されてはいけない。次亜塩素酸水溶液普及促進会議

のホームページに数々のエビデンスと、過去の学会発表が掲載されているので、検索していただきたい。

被災地で役立つ次亜塩素酸水の噴霧

一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議（JFK）は昨年の能登半島地震の支援活動を通じて、避難所での感染対策に協力し内閣府感染対策危機管理統括庁へ次亜塩素酸水を政府の備蓄リストに入れるよう提言している。



▲超音波加湿器による噴霧効果は絶大

今回のパナソニックの実空間での実証試験の発表の影響は大変大きなものであり、現在の新型インフルエンザ、新型コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎などの感染拡大対策に大きな解決策をもたらし、鳥インフルエンザ、ノロウイルス、風疹を始めとする空気感染を次亜塩素酸水で予防できることを知らしめるものである。

日本の水道水は世界で唯一、蛇口での残留塩素濃度を0.1mg/lと定めている。

私たちは薄い次亜塩素酸水そのものを毎日飲んでいるのである。消毒されたプールの中で他

第7次エネルギー基本計画と2027年照明問題を考える

先月号で論じた、「エネルギー基本計画に照明と空調の国家的省エネ効果を織り込むべき」との提起に多くの方から賛同の声をいただいている。先日、小泉純一郎元総理の勉強会に呼ば

人の病気が感染しないのと同じように、空間の空気中の菌を殺していくことで感染を防止する方法がある。超音波加湿器に薄い次亜塩素酸水を入れるだけで良いのである。

新型コロナウイルスの発生から5年が経った。ここであらう不幸な時代の全てを総括して、馬鹿げた判断と利権の輩を炙り出して、現在の感染対策に役立て、次のパンデミックに備えるべきである。

今度こそアルコールだろうが、ワクチンだろうが利権に騙されず、正しい情報を自分の目で確かめる必要がある。

れて講演してきた。

こんな大事なことをなぜ政府は12月24日の閣議決定まで放置してきたのか、原子力再稼働のシナリオを崩されないように省エネに触れなかった姑息なやり

方に怒りの声が上がっていた。

なせ、2023年11月に締約した2027年蛍光管製造禁止の事実を一年間公式発表もせずに口をつぐみ、2024年12月24日まで閣議決定を行なわなかったのである。その1週間前の12月17日に第7次エネルギー基本計画案が発表され、年末年始を挟んで実質ひと月もない期間でのパブリックコメントをやり過ぎた。

確実に起る何千万円にもなる国家規模の省エネにも触れずに最初から理論破綻している計画である。所詮、絵に描きそび



▲小泉純一郎元首相・中川秀直元官房長官と筆者

〈筆者略歴〉
株あかりみらい代表取締役。北海道大学卒業後、北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。（一社）日本の灯りを護る会代表、（一社）次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、日本除菌連合の会長を務める。札幌なかがでできる経済人ネットワーク主宰。

心から申し上げる。今すぐに見積もりをとって、1日も早くLED化を済ませてしまうことだけが自分の灯りを護る唯一の方法である。

無料進呈 一括LED化の全てが分かる LED化パーフェクトマニュアル

2027年照明問題

蛍光管製造禁止！をどう解決するか

全国の自治体や企業、病院、学校、工場、施設等のLED化が間に合わなければ社会機能が欠損。今のままでは到底間に合わない！

- 無料で AI図形認証プログラムによるLED化試算見積もり
- 初回費用不要 リースならば初期費用なし
- さらに LED化で浮いた電気料金で、次は空調の冷媒交換



自治体LED化パーフェクトマニュアル



企業版LED化パーフェクトマニュアル

株式会社あかりみらい
akarimirai

お問い合わせはこちら

0120-760-814

フリーダイヤル受付(平日9時~17時30分)

詳しくはホームページをご覧ください

あかりみらい

検索

【札幌本社】北海道札幌市北区北11条西2-2-17 セントラル札幌ビル4階

【東京支社】東京都中央区日本橋室町1-2-6 日本橋大栄ビル7階

【大阪支社】大阪府大阪市北区梅田2-2-2 ヒルトンプラザウエストオフィスタワー18階

【沖縄あかりみらい株】沖縄県那覇市久茂地2丁目19-5